

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分  
 【発行日】平成30年12月27日(2018.12.27)

【公開番号】特開2018-21857(P2018-21857A)  
 【公開日】平成30年2月8日(2018.2.8)  
 【年通号数】公開・登録公報2018-005  
 【出願番号】特願2016-154200(P2016-154200)  
 【国際特許分類】

G 0 1 T 1/17 (2006.01)

G 0 1 R 19/00 (2006.01)

【 F I 】

G 0 1 T 1/17 C

G 0 1 R 19/00 L

G 0 1 T 1/17 A

【手続補正書】  
 【提出日】平成30年11月14日(2018.11.14)

【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 0 4 4  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】

【 0 0 4 4 】

S 1 3 の判定が Y e s ならば、S 1 4 に進む（図 1 2 を参照のこと）。S 1 4 では、ノイズ処理（D 2）を実行する。まず、実計数値メモリ 5 2において、許容範囲を逸脱した期間の実計数値を、すべて、第 1 の平均実計数値で置き換える。移動平均計数率算出部 5 4 において、置き換え後の実計数値データ列に基づき、移動平均計数率（今回）を求めて出力させる。工学値変換部 5 5 において、移動平均計数率（今回）に基づき、工学値を求めて出力させる。表示ユニット 6 において、求めた工学値を表示させる。この一連のノイズ処理（第 2 のノイズ処理）が終了したら、S 1 6 で許容範囲逸脱回数（Q）をリセットして、S 0 1 に戻る。

【手続補正 2】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 0 5 2  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【 0 0 5 2 】

静電気ノイズは、放射線測定装置が影響を受ける代表的な電磁ノイズの一つである。静電気ノイズは、電荷積分部 2 1 の入力に侵入した正または負のノイズ電流が、その出力信号の鋸波状パルスに正または負の突変電圧ノイズとして重畳される。また、電磁ノイズは、電荷積分部 2 1 の入力に侵入した正と負で交互に振動するノイズ電流がその出力信号の鋸波状パルスに振動電圧ノイズとして重畳される。両者共にノイズ侵入中の電流信号成分がノイズ終息直後の鋸波状パルスに忠実に反映される。電荷積分部 2 1 の出力信号としての鋸波パルスの基本波形には影響しないので、前記ノイズ処理（D 2）を適用する。

【手続補正 3】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 0 6 6  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】

## 【 0 0 6 6 】

表示ユニット6からリクエストすることにより、それらの記憶している内容は表示ユニット6に表示させるようにしている。放射線測定装置の状態に関する情報を提供することで保守性が更に向上する。前記ノイズ処理手段は、前記第2のノイズ処理実行の積算回数及び前記第3のノイズ処理実行の積算回数をそれぞれ記憶しておき、前記工学値演算処理手段はリクエストによりその積算回数を表示するようにしたことを特徴とする。

## 【 手 続 補 正 4 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 7 1

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

## 【 0 0 7 1 】

1 放射線検出器、2 電流/電圧・周波数変換ユニット、2 1 電荷積分部、2 1 1 コンデンサ、2 1 2 オペアンプ、2 2 電圧比較部、2 3 電荷放電部、2 3 1 定電流源、2 4 矩形波パルス出力部、3 計数ユニット、4 アナログ/デジタル変換ユニット、5 演算ユニット、5 a マイクロプロセッサ、5 1 実計数値算出部、5 2 実計数値メモリ、5 3 ノイズ処理部、5 4 移動平均計数率算出部、5 5 工学値変換部、6 表示ユニット、7 バイアス電源ユニット、1 0 0 放射線測定装置、P L 許容下限値、P U 許容上限値、